

スバ・ランカ通信27号（2016年12月15日）

NPO法人スバ・ランカ協会 HP:<http://www.subalanka.org/>（文責：大岩碩）

1. 役員の変更届 会員の皆さま新役員をよろしく願いたします。

役員の変更届を名古屋法務局に提出し、10月17日に受理されました。本来なら5月に済ますべきでしたが、大変遅くなり申し訳なく思っています。新役員の方の自己紹介をご覧ください(50音順)。

岩崎公弥子さん	スバ・ランカ協会のWebを設立当初から担当してきました。スリランカには訪れたことはありませんが、Webを制作する過程のなかで、協会の活動理念や活動内容について学んできました。2004年から金城学院大学現代文化学部、2012年～同大学国際情報学部で教員をやっています。専門は情報メディアでWebやデジタルコンテンツ制作の授業を担当しています。
加藤順子さん	2004年に初めてスリランカに行き、3ヶ月間デヒワラの老人ホームにてボランティアをしました。シンハラ語が全く分からず苦労しましたが、入所者の方たちのお世話をして楽しく活動しておりました。2006年には1ヶ月間、再度同じ老人ホームにてお手伝いをしました。2004年の時よりシンハラ語が少し理解できていました。2008年から7年間、2015年まで、主に知的障がい者・児の自立支援をするNPO法人でヘルパーをしました。一緒に遊んだり、お出掛けをしたり、入浴介助をしたり、さまざまな支援をし、楽しく働きました。初めてスリランカに行って以来、4～5日のスリランカ旅行を5回程行っております。
高野幹成さん	スバ・ランカ協会主催の「シンハラ語教室」で、大岩先生・新海先生と出会いました。両親がスリランカでボランティアをしていたのをきっかけに、2000年頃に初めてスリランカに行きました。それ以来、スリランカで子ども達の教育支援やビジネスのお手伝いをしています。スリランカ人は穏やかで、危険も少ないため何度行っても気持ちが平和になります。知人にスリランカの話をするとうれしい方が「行ってみたい!」と喜んでくださるので、スリランカの良い所をどんどん広げ、今後は、スバ・ランカ協会を通じて日本とスリランカの懸け橋になればと思います。

2. 渡スリ36年間で初めての招待（2016年11月14日）



僧の食堂（布施堂）の完成



初めて食堂にお坊さんを迎える儀式

私事で恐縮ですが、最初にスリランカに行った1980年以来初めて招待を受けました。11月14日の僧の食堂（布施堂）のオープンセレモニーに招待されたのです。この食堂はスバ・ランカ協会のスリランカ事務所があるウィディヤナンド僧院学校にあります。事務所長は僧院の住職、G.インドラナンド和尚です。実は、ここには1人の日本人青年が住んでいます。彼の名前はT.数耶君です。彼はスバ・ランカ協会主催の講演会に来て、スリランカで仏教の勉強がしたいと言いました。5年前のことです。私大岩はその後10回ほど高蔵寺農協の喫茶店で彼と話し、彼の意志が固く、真面目な人物であることを理解しました。そこで、彼をインドラナンド和尚に紹介したのです。和尚も快く引き受けてくれました。彼は3年間この布施堂の建設のために、若い見習い僧と一緒に懸命に働き、建築資材を買い求め、尽力

しました。その成果を私に見てほしいということで招待してくれたのです。協会の講演会の記事をみて、聞きに行ってみたらと勧めたのはお母さんだったそうです。協会が企画した親善ボランティア旅行の参加者の方々もツアーの途中で僧院を訪れた際に、建設のために喜捨してくださいました。ありがとうございました。協会活動の一コマですが、こうしたご縁もあるのだと感慨深いものがあります。滞在6年目の彼が今後、どのような生活をし、どのような人物になっていくのかを見守っていきたいと思います。協会には「スリランカ何でも相談窓口」という事業があり、上記の話はこの相談事業の一環です。他にも、スリランカ人男性と離婚する日本人女性が、その気持ちを彼の両親に直接伝えたいが何とかならないかという相談もありました。彼女の手紙をシンハラ語に翻訳して両親に送ることで対応しました。

3. ヤシの木7本に実がなりました。スバ・ランカのヤシ農園 (2016年11月)



ヤシ畑



ヤシの花

📷 10数個の実をつけたヤシと農夫チャンダヤ

招待を受けたついでに短期間ですが協会の活動拠点を見て回りました。スバ・ランカのヤシ園・カシューナッツ園を真っ先に見てきました。ヤシ栽培を始めて3年になりますが、実をつけ始めたヤシが7本ありました。全部で100本くらいありますからまだまだですが、順調に育っていることは事実です。収穫まで5年かかると言われていますので再来年2018年にはかなり多くのヤシが実をつけるだろうと思います。このヤシ栽培はカシューナッツの収穫が思ったよりも少なく、管理維持費をねん出するのが困難であるので、これを補う意味で、現金収入を得るために始めました。ヤシは成長するまでが大変ですが、実をつけるようになればあとは手がかかりません。成木には15ほどの実が付き、年に5~6回は新たに収穫ができます。ということは1本のヤシで年間75~90個の実が収穫できるのです。100本すべてがうまく成木になれば、年間7500~9000個は実が取れる計算です。捕らぬ狸の皮算用になりませんように。皆さんで願掛けしましょうよ。よろしく願いいたします。

4. バイオガスの実用化。堆肥・バイオガス生産研修センター (2016年11月)



写真中央が牛舎、左の鉄パイプがガス導線、手前のマンホールの地下にバイオガス発生タンク



☞ **チャMITTさんとバイオガス**
モリコロ基金からの助成金で建設できたセンターにおいて、バイオガスの実用化が始まりました。乳牛は現在5頭おり、その糞で堆肥を作り、糞を地下タンクに流し込むことで糞

を貯め熟成させて、バイオガスを発生させます。糞が十分にたまり、ガスの発生が始まり、そのガスをチャMITTさんの自宅まで引き込むことができました。彼は牛乳生産協同組合を作り、乳牛飼育農家30軒から牛乳を集めヨーグルト生産を始めました。その生産にバイオガスが使われています。来年度、アジア生協協力基金から助成金が下りればアイスクリーム製造を開始します。

平成28年もまもなく過ぎようとしています。会員の皆さまこの1年大変お世話になりました。ありがとうございました。皆様にとって来る年がすばらしい良き年になりますように。アーユポーワン！